

7. 水源地域動態

7.1 流域の概要

7.1.1 水源地域の概要

九頭竜川流域は、福井県嶺北地方の7市4町(大野市と旧和泉村が合併、福井市と旧清水町、旧美山町が合併、旧芦原町と旧金津町が合併しあわら市、旧坂井町と旧春江町、旧丸岡町、旧三国町が合併し坂井市、旧朝日町と旧織田町、旧宮崎村が合併し越前町、旧今立町と旧武生市が合併し越前市、旧南条町と旧今庄町、旧河野村が合併し南越前町、旧上志比村と旧永平寺町、旧松岡町が合併し永平寺町、勝山市、鯖江市)を中心に、岐阜県郡上市石徹白地区(旧白鳥町)を含め2県の8市4町にまたがっている。

九頭竜川の流域では、古代から人々の生活の跡が、いろいろな地区で見られる。流域での生活の様子は、九頭竜川本川、日野川、足羽川の三大河川がもたらす恵み多い自然の中で、大和や京都の影響を受けながら風土に根ざした文化を育み、歴史を刻んできた姿を数多い遺跡や古墳、文化財などから窺い知ることができる。

現在は、福井平野を中心に武生盆地や大野盆地などで市街地の拡大伸展が見られる。人口は、福井平野を中心とした西側の市町で増加傾向にあり、東側の山間部市町では減少傾向が見られる。西側市町の核は、商業・サービス業を中心とする福井市、工業や商業を中心とする鯖江市と越前市である。また、農業は福井平野を中心として展開されており、東側山間部市町村では若干の工業の展開が見られるものの、林業の不振もあって過疎化が進みつつある。

大野市域の約80%を占める森林がもたらす「水」は、名水百選「御清水」^{おしよすず}に代表されるように、大野市の大きな魅力となっている。清らかで豊かな水は、農業をはじめ素晴らしい食文化を育んできた他、地場産業の繊維工業の振興にも大きな役割を果たしてきた。一方、市街地は戦国時代からの町割りが色濃く残り、城下町の風情を味わうことができる歴史と文化に満ちた空間となっている。今日まで脈々と受け継がれてきた幕末の大野藩に代表される進取の精神や、シンボルの亀山、越前大野城、寺町等は市民の誇りである。

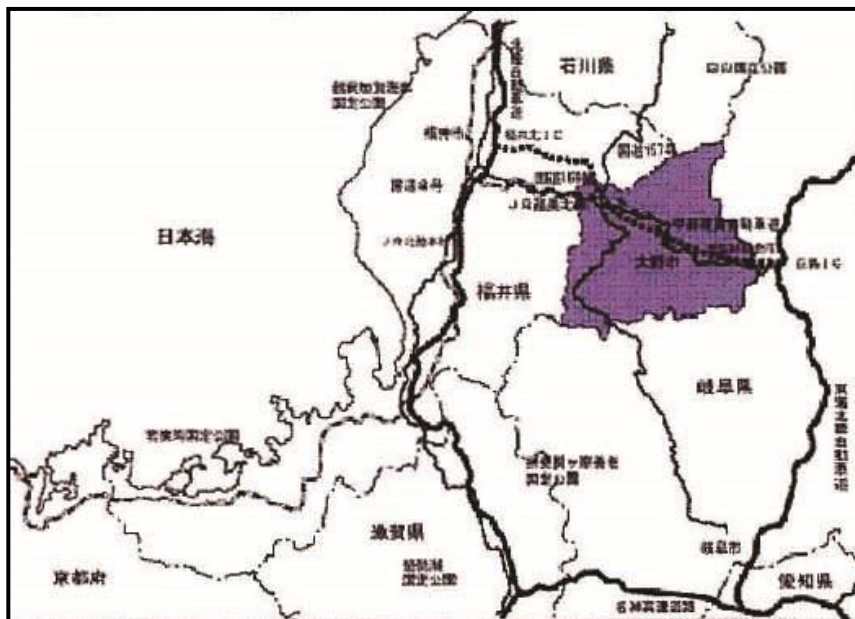


図 7.1-1 水源地域の太野市概略位置図

7.1.2 ダムの立地条件

真名川ダムの水源地域は福井県大野市に位置している。平成 17 年 11 月 7 日に大野市と和泉村が合併し、新「大野市」が誕生した。同市の人口は 35,291 人（平成 22 年国勢調査）、面積は 872.30km²と福井県最大であり、その約 87%を森林が占めている。

【出典：大野市勢要覧 2007】

大野市は、福井県の東端に位置し、東と南は岐阜県、西は福井市と池田町、北は勝山市と石川県に接している(図 7.1-1 参照)。

真名川ダムへのアクセス道路で、南北に通る国道 157 号と、東西に通る国道 158 号は、北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で地域の振興に欠かすことのできない道路である

大野市をほぼ東西に通る国道 158 号、真名川ダムへのアクセス道路で大野市東部を南北に通る国道 157 号は、福井県と岐阜県や石川県を結ぶ北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で、地域の振興に欠かすことのできない道路である。

鉄道は JR 越美北線(九頭竜線)が国道 158 号にほぼ平行して走り、福井駅で JR 北陸本線と接続している。

また、現在建設中の中部縦貫自動車道(一部開通)は水源地域を縦断する計画となっており、完成すれば東海北陸自動車道で中京圏と、北陸自動車道で関西圏との時間距離が短縮される。福井県の東玄関口となる奥越前にとって地域活性化の強力な起爆剤になると期待されている。

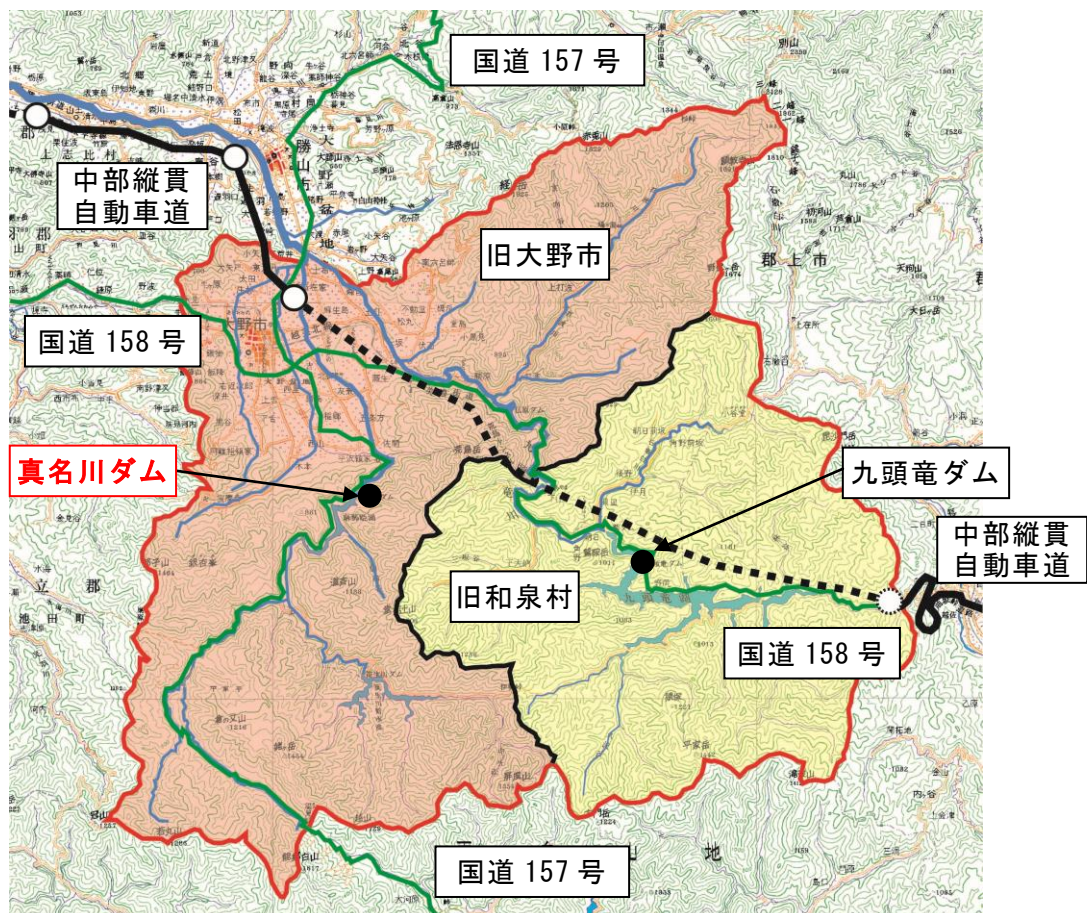


図 7.1-2 大野市域と真名川ダム周辺の概略道路図

注) 現在の大野市は、旧大野市と旧和泉村が合併している。



図 7.1-3 中部縦貫自動車道(大野市周辺)の概要

【出典：福井河川国道事務所記者発表資料 平成 25 年 2 月 15 日】

交通アクセス(大野まで)

	福井まで	大野まで
●東京から		
JR/東海道新幹線・北陸特急で	約 3 時間 30 分	}
飛行機/羽田～小松～福井(バス)	約 2 時間	
自動車/東名・名神・北陸自動車道	約 6 時間 30 分	
高速バス/東京駅八重洲南口～福井	約 8 時間 20 分	
●大阪から		
JR/湖西線特急で	約 1 時間 50 分	}
自動車/名神・北陸自動車道	約 3 時間	
高速バス/阪急三番街～福井	約 3 時間 30 分	
●名古屋から		
JR/北陸線特急で	約 2 時間	}
自動車/名神・北陸自動車道	約 2 時間	
高速バス/名鉄バスセンターJR 名古屋駅～福井	約 2 時間 50 分	

・JR 越美北線で
約 1 時間
・京福バス大野線で
約 1 時間

【出典：福井県観光マップ】

7.2 ダム事業と地域社会情勢の変遷

(1) 水源地域の人口・世帯数の推移

真名川ダムの水源地域である大野市(旧大野市)の人口は、農林業や鉱業の衰退等で昭和 35(1960)年から昭和 45(1970)年にかけて減少し、昭和 60(1985)年頃までは横ばいであったが、平成 2(1990)年以降は減少傾向にある。

世帯数は、核家族化の影響等もあって平成 17 年まで増加していたが、平成 22 年は平成 17 年から減少している。

表 7.2-1 大野市(旧大野市)の人口・世帯数の推移

旧大野市	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口(人)	46,271	44,873	42,241	41,918	41,901	41,926	40,991	40,245	38,880	37,174	34,750
5年間の増減率	—	-3.0%	-5.9%	-0.8%	0.0%	0.1%	-2.2%	-1.8%	-3.4%	-4.4%	-6.5%
世帯数(世帯)	9,620	9,975	10,090	10,306	10,476	10,485	10,463	10,567	10,867	10,977	10,621

【出典：国勢調査 昭和 35 年～平成 22 年】

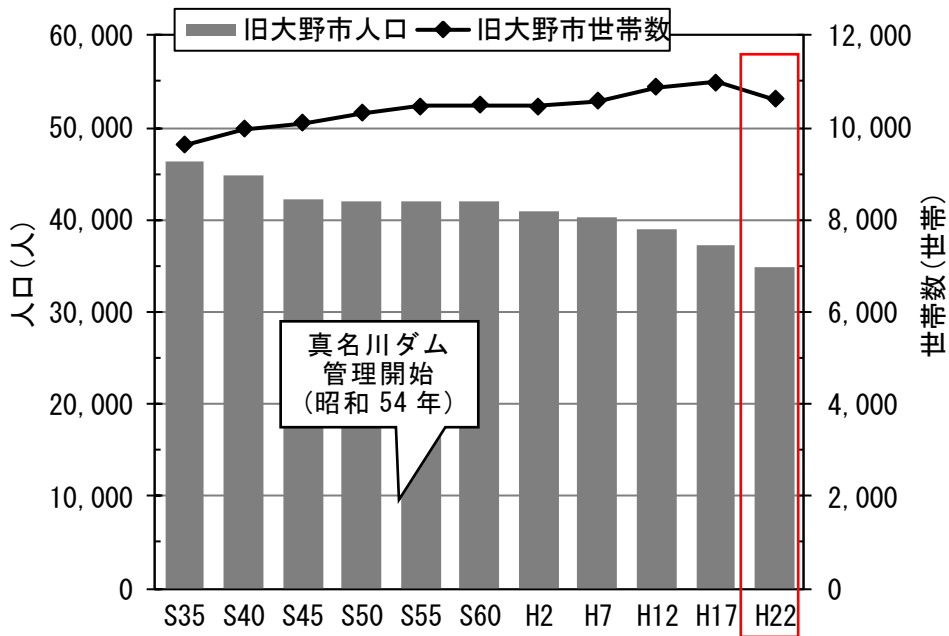


図 7.2-1 大野市(旧大野市域)の人口・世帯数 経年変化

【出典：国勢調査 昭和 35 年～平成 22 年】

(2) 産業別就業者人口

大野市(旧大野市域)における事業所数の経年変化を図 7.2-2、産業別就業者人口の経年変化を図 7.2-3 に示す。

大野市(旧大野市域)においては、事業所数は昭和 55~60 年頃までは増加していたが、その後は減少傾向にある。

産業別就業者数の割合の経年変化では、昭和 55(1980)年までは、就業者数は概ね横ばいであったが、その後は減少傾向にある。

産業別では、第一次産業就業者数は昭和 35(1960)年以降減少し続けている。

第二次産業の就業者数が昭和 50 年前後に増加しているが、これは真名川ダム建設工事の影響と考えられる。昭和 60 年まではほぼ横ばいであったが、平成 2 年以降は減少傾向にある。

昭和 55(1980)年以降は人口の推移と同様に就業者数も減少する傾向にある。過疎高齢化に伴う第一次産業就業者数の減少及び鉱業関連産業の衰退等で第二次産業就業者数が減少し、第三次産業の就業者割合が相対的に高くなり、平成 17(2005)年からは 5 割を超えている。

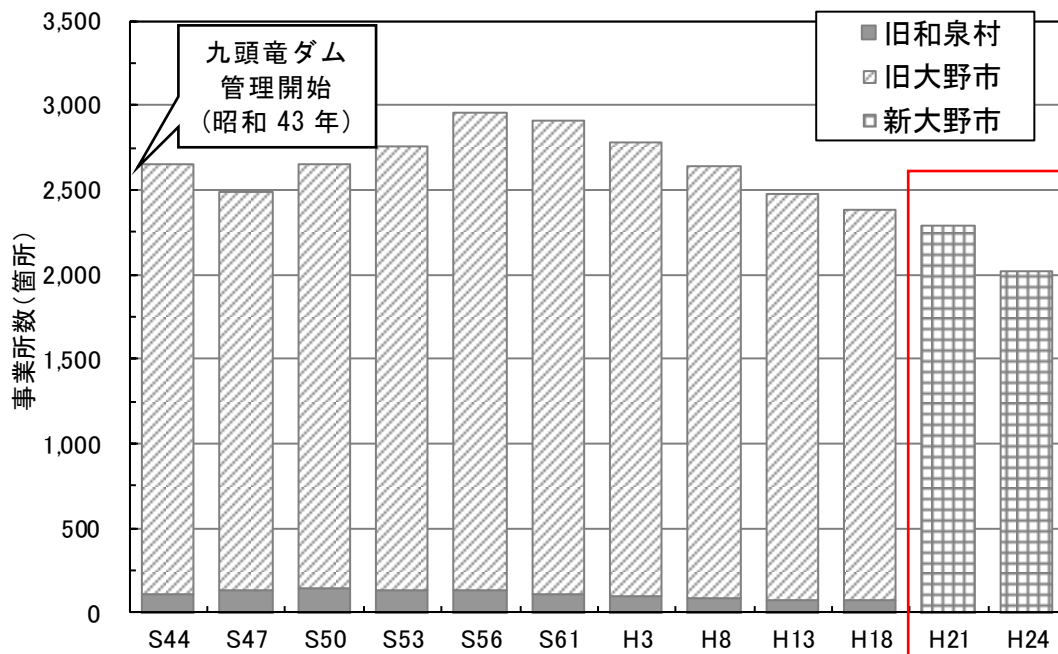


図 7.2-2 大野市(旧大野市・旧和泉村)の事業所数 経年変化

【出典：事業所・企業統計調査 昭和 44 年～平成 24 年】

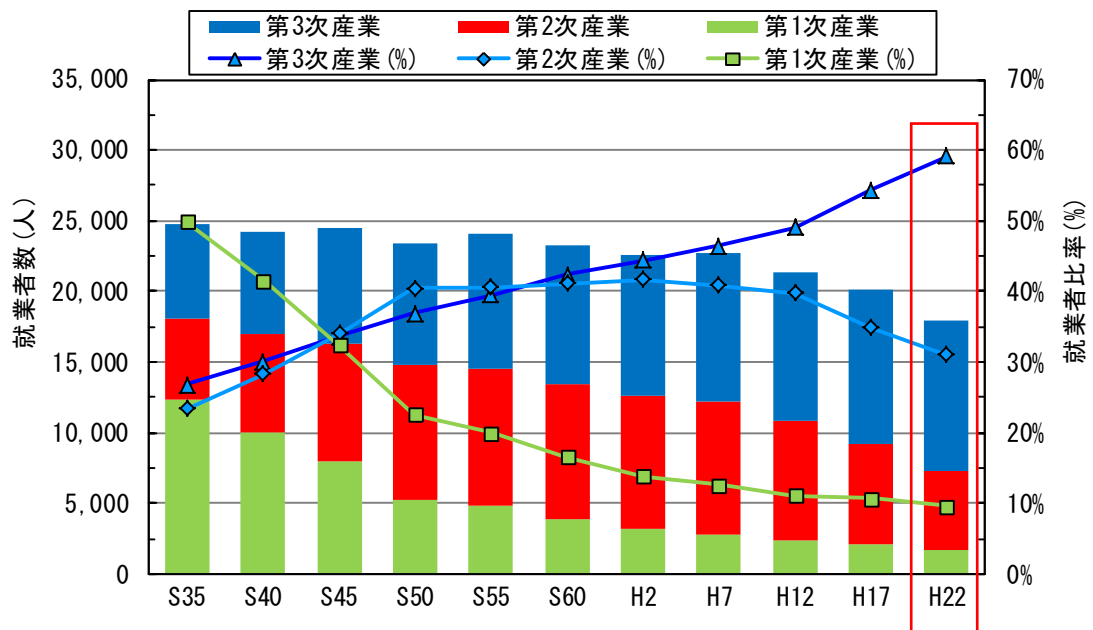


図 7.2-3 旧大野市の就業者数及び就業者比率 経年変化

【出典：事業所・企業統計調査 昭和44年～平成24年】

(3) 観光イベント等の開催

水源地域である大野市和泉地区(旧和泉村)では、次のような観光イベントが開催されている。

表 7.2-2 大野市和泉地区(旧和泉村)における開催イベント

月	イベント名	会場	内容
4	大野城さくらまつり	大野城城山公園	桜茶会、琴演奏、散策ラリー等
5	七間朝市・ 山菜フードピア	七間朝市	越前おおのの豊かな自然に育まれた農産物やわらびやたらの芽といった山菜などの販売、山菜茶屋等
7	森と湖に親しむ旬間	真名川ダム周辺	真名川ダム見学見学会、パネル展示、工作教室、流木工作教室、流木・堆肥・おが粉の配布等
8	おおの城まつり	大野市内の各会場	大花火大会、中学生みこし・ダンスパフォーマンス、結の故郷小学生ふるさと芸能発表会、越前おおのおどり等
10	三大朝市まつり	大野市内の各会場	農産物を中心とした「越前おおの」の特産・名製品の即売市、友好都市や近隣のまちの物産市等

◆大野城さくらまつり(4月)

4月有終公園周辺において、観桜期間に合わせて各種イベントや体験などが楽しめる。

◆七間朝市・山菜フードピア(5月)

山菜フードピアは、旬の味覚・山菜を中心に、新鮮野菜や手作り加工品など豊富な量と品揃えが自慢である。

◆森と湖に親しむ旬間(7月)

森と湖に親しみ心身をリフレッシュしながら、森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくためことを目的としている。真名川ダム見学見学会、パネル展示、工作教室、流木工作教室、流木・堆肥・おが粉の配布等が開催されている。

◆おおの城まつり(8月)

夏の一大イベント「おおの城まつり」は、毎年8月のお盆期間に市内の各会場で踊りやイベントを開催する。大花火大会や「越前おおのおどり」など、浴衣の市民や帰省客で、情緒ある町は賑わいをみせる。



◆三大朝市まつり(10月)

三大朝市物産まつりは、毎年10月の第4土日に七間通りで開催される秋の食祭である。大野の朝市を始め、友好市町の朝市や物産の即売など、各地のとれたての山海の幸が勢揃いする人気のイベントである。



7.3 ダムと地域の関わりに関する評価

7.3.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

真名川ダムは、真名川ダムは、「名水のまち」旧大野市の近郊に立地するダムであるが、雄大な奥越山岳地帯に位置する奥山型ともいえる立地条件にあり、周辺は福井県内で有数の林業地帯でもある。都市域との広域的な交流は比較的利便性が良く、大野市街地との連携・ネットワークにより、その活用が大いに見込める条件にある。

(1) 真名川ダム水源地域ビジョン(平成16年3月策定、平成18年2月に九頭竜ダム水源地域ビジョンと統合)

「真名川ダム水源地域ビジョン」は、従来の水源地対策から、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図る総合的な整備への転換を目指したものである。ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する、水源地域活性化のための行動計画である。

真名川ダム水源地域ビジョンの基本方針を図 7.3-1 に、施策の実施イメージを図 7.3-2 に示す。

【真名川ダム水源地域ビジョン 基本方針】

—里山の再生—水源林を保全する—

- 健全な水循環を確保する第一歩として、美しい森林の緑のダムを人々の理解や愛着によって再生する必要があります。
- 林業の活性化だけでなく、国土保全としての防災的な必要性とともに、雇用確保などの今後の社会的な課題となることが考えられます。

—清水や水路の自然再生—地域的な水管理に取り組む—

- 様々な用途で利用され重要な地域資源となっている大野の地下水や、市内の水路や河川などの地下水涵養の供給源を保全し、大野の情緒ある生活環境やうおいのある自然環境を再生します。
- 従来の地域用水の様々な管理状況を見直し、真名川ダムの貯水池運用の工夫とともに、下流の水路網の整備による農業用水の配水管理を検討します。
- イトヨやホタルが生息する水空間の再生や豊かな地下水を取り戻すとともに、水管理における関係機関での調整や市民参加での取り組みが極めて重要となります。

—人間関係の再生—上下流交流を促進する—

- 大野の水環境を改善しながら、高齢者福祉まで含めて地域の相互扶助が拡充していく必用があります。
- 地域の水環境の保全に向けて地域の共同体を再生し、さらに下流との広域交流の受け入れ体制づくりなどを進め、地域の結束を高めて人間関係を豊かにすることが重要です。

図 7.3-1 真名川ダム水源地域ビジョンの基本方針

【出典：真名川ダム水源地域ビジョン 平成16年3月】

「水のグランドデザイン」としてのビジョン施策のメニュー


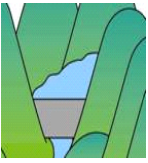



施策の柱	施策	具体的内容	
水源林の保全 (水源涵養と 林業の活性化) 	森林施業との連携	・健全な水循環・水源涵養機能保全や観光資源の保全のための森林施業と連携した山林の維持管理・保全	
	雑木林(里山)の活用	・交流拡大のための下草刈りや落葉かき等、山林保全活動と組合せて楽しめる多彩なイベント・メニューの提供	
	林業ボランティア	・循環型社会や環境をテーマに活動する各種の組織・団体等の幅広い環境ボランティアとの連携の検討 ・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
大野の「水」 	ダム管理と周辺整備	河川の維持流量等の確保の研究 ・適正な水利用、河川及び市内水路での流量確保の研究 ・非かんがい期の「目に見える水路」に水を流す検討	
	大野盆地の健全な水環境 	地下水保全を図る貯水池運用の研究	・真名川ダム貯水池運用の工夫による放流可能量の確保や、それによる地下水涵養等の研究
		中島公園の充実	・日帰り・宿泊用のレクリエーションの機能の充実 ・周辺の山を生きた自然観察園としての活用 ・川や湖面での釣り等、水面の活用についての研究
		水路網の復元	・大野市の風景として市内を流れる水路網の景観保全 ・覆蓋されている水路での「せせらぎ」の可視化
	水と社会との関わり (情操や環境啓蒙活動) 	水を活かした公園づくり	・水環境・親水性のある公園(ビオトープ)の整備
		農業用水管理との連携	・地下水涵養源である田圃による湛水期間と面積の拡大 ・用排水路に可能な限りの通水
		地下水位のモニタリング	・市内中心部の地下水位の監視の継続 ・市民や地下水利用者への理解のための地下水状況の広報
		家庭排水対策	・水文化や水の歴史をテーマにしたフォーラム等の開催 ・水環境保全の活動(河川清掃・生き物観察等)企画 ・イトヨなどの水生生物とその生息環境保全の活動の継続 ・水辺の再生とそこに生きる動植物の保全活動
	上下流交流 (都市との 広域交流) 	水文化や愛護活動	・家庭雑排水の市内水路への直接排水の防止 ・市民の「水に関する意識」の高揚
		NPO活動の拡充	・山林・河川の維持管理等、循環型社会や環境に関する各種の組織・団体・環境ボランティア等との連携や活動拡充
活動の人材の確保・育成		・交流活動の活性化に関する人材の発掘、人材ネットワークの作成、活性化活動をリードする団体・個人等の育成 ・各分野のマイスターや環境学習インストラクターの募集	
近隣地域との相互訪問		・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
県外との交流		・受益地等の関係地域の住民による水源地域の維持管理の参加のため、環境ボランティアの参加・受入れ体制の確立	
中山間地域の活用	・周辺市町村からの誘致などによるグリーンツーリズム		
各種情報の発信	・水源地の実態や都市交流のための情報発信 ・地域の相互連携や都市との交流のための各種情報の発信 ・光ファイバー網の活用		

図 7.3-2 真名川ダム水源地域ビジョン 施策メニュー

【出典：真名川ダム水源地域ビジョン 平成16年3月】

(2) 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進

平成 17 年 11 月の旧大野市と旧和泉村の合併に伴い、真名川ダム・九頭竜ダムの水源地域ビジョンを一体的に推進するため、平成 18 年 2 月に「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」が設立された。

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する、水源地域活性化のための行動計画である。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンでは、「森林」、「水」、「交流」を 3 つの柱のもとに水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流など様々な施策を実行することにより、水源地域の持続的な発展を目指す。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの活動イメージおよび施策概要図を図 7.3-3 および図 7.3-4 に、水源地域ビジョンに関連する活動・イベントを表 7.3-1 に示す。

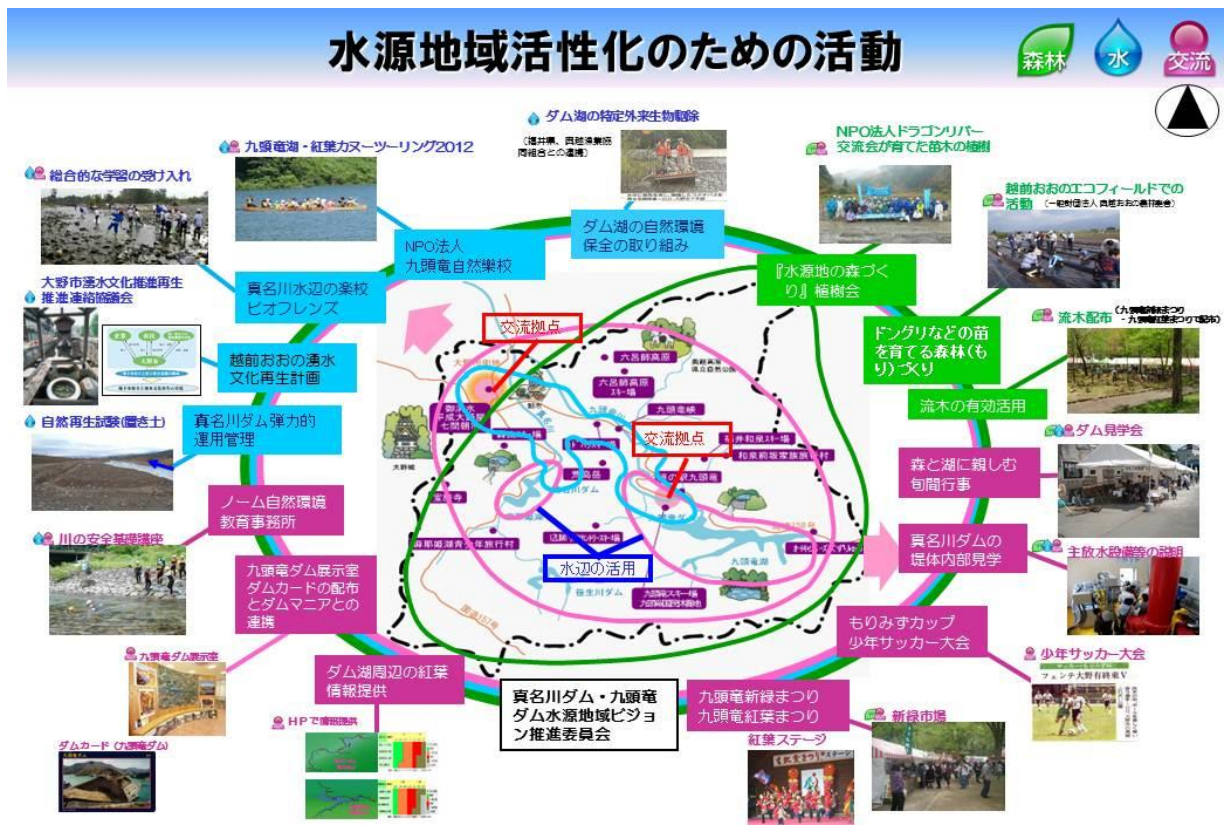


図 7.3-3 真名川ダム・九頭竜川ダム水源地域ビジョンの活動イメージ

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン

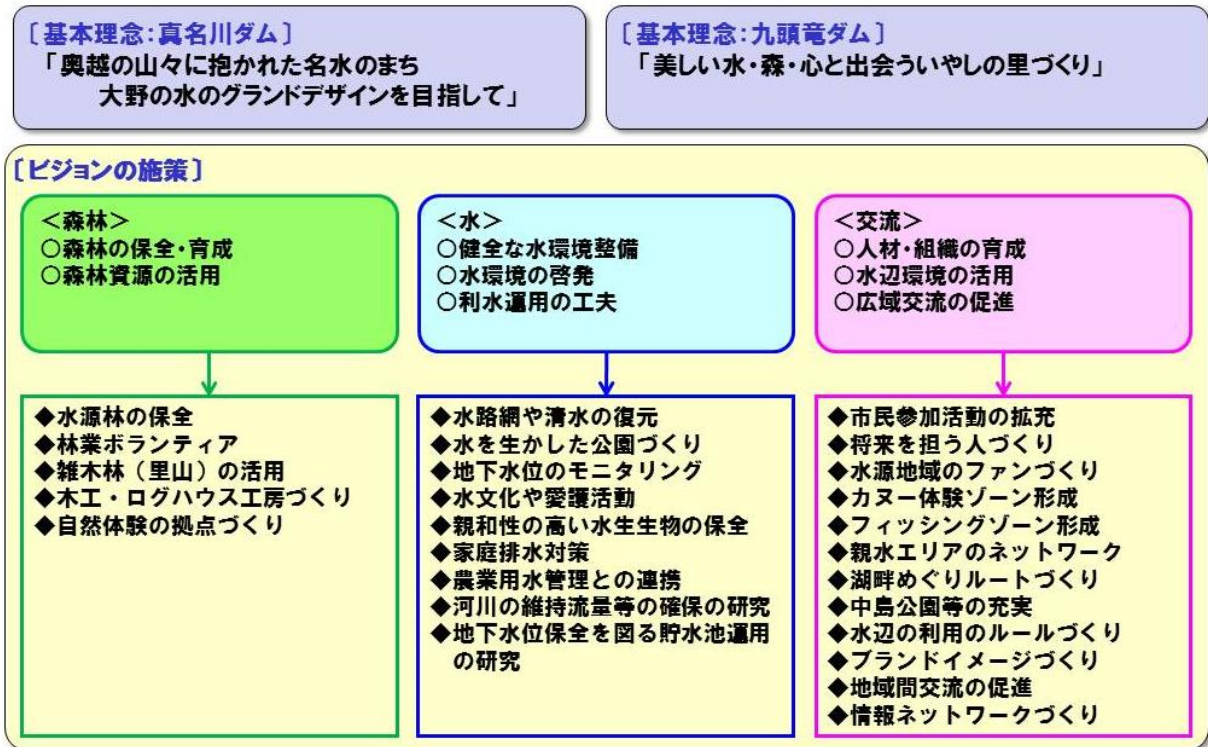


図 7.3-4 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン 施策概要図

【出典：真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン 平成 18 年 2 月】

表 7.3-1 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンに関連する真名川ダムのイベント等

開催日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成24年7月7、8日	第5回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。 ・真名川堤内通路、ギャラリーウォーク、発電設備などの見学 ・工作教室(森のマスコットづくり、スマートボールゲームなど)	(延べ12チーム)	もりみずカップ実行委員会、フェンテ大野フットボールクラブ
平成24年7月28日	森と湖に親しむ旬間行事「真名川ダム見学会」	真名川ダム	・流木工作教室 ・パネル展示、流木・おが粉・堆肥の配布、など ・ドングリ拾い(親子連れ中心)	約270人	
平成24年10月8日	越前おおのエコフィールドどんぐりの苗づくりイベント	越前おおのエコフィールド	・ドングリ苗木の植樹(2年ものの苗木など約170本を平家平に植樹) ・ドングリの種まきと1年ものの苗木の越冬準備	約220人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成24年10月22日～11月26日	ダム周辺の紅葉情報を事務所HPで提供	真名姫湖周辺	真名姫湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理所職員がダム湖を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供		九頭竜川ダム統合管理事務所
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理所にて来訪者にダムカードを配布	916枚(累計7,284枚:平成24年12月未現在)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム環境マップの配布	真名川ダム管理支所	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。		九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	・Aコース(60分) 上段監査廊、主放水設備、維持管理棟、噴水前を案内 ・Bコース(30分) 維持管理棟、噴水前を案内	465人	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川水辺の楽校	大野市南新在家の河川敷	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる親水活動の場 ・自然体験・自然学習・総合学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間 ・上記の保全と創出を図るとともに、維持管理、動植物モニタリング調査を継続的に行っている。	183人	真名川水辺の楽校 Bioフレンズ

【出典：ダム管理フォローアップ年次報告書作成他業務 平成 25 年 3 月】

7.3.2 地域とダムとの関わり

真名川ダムでは、地元地域の市町村との関わりとしてダム見学会開催などの様々な活動を実施している(表 7.3-2)。

表 7.3-2 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(その1)

開催日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者	
平成19年度	平成19年7月28日	森と湖に親しむ集い in 真名川	乗馬体験、魚つかみ取り、鬼ごっこ、工作教室、つる籠づくり、ドングリの種まき	300人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会、九頭竜川ダム統括管理事務所、福井森林管理所、福井県、大野市、電源開発(株)、北陸電力(株)、関西電力(株)	
	平成19年7月28日	真名川ダム見学会 中島発電所見学会	ダム見学会	150人 185人		
	平成19年7月21日	水・交流サミット	福井県国際交流会館	九頭竜川「水・交流サミット」	200人	九頭竜川「水・交流サミット」実行委員会、福井市、大野市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、福井県、国土交通省
平成20年度	平成20年7月26～27日	森と湖に親しむ旬間「森と湖に親しむつどい2008 九頭竜湖・麻那姫湖サマーフェスタ」	メイン会場 シンボルフラッグ紹介、「森と湖のある風景画コンクール」表彰式、記念植樹 真名川ダム堤体周辺 真名川ダム見学会、ダム案内紹介ブース、真名川流木・炭プレゼント、真名川昆虫とのふれあい 中島公園 森の工作教室、丸太切り体験、発電所見学、魚のつかみ取り シンボジウム	10,158人 1,928人 1,766人	平成20年度九頭竜ダム・真名川ダム「森と湖に親しむ旬間」全国行事現地実行委員会	
	平成20年11月8日	「水源地の森づくり」第3回植樹会	真名川ダム貯水池上流 中島公園周辺2会場	NPOドラゴンリバー交流会より提供いただいたコナラの苗木250本を、真名川ダム貯水池上流に、参加者が各自スコップなどを持ち寄り植樹	45人	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
	平成20年10月10日～11月21日	ダム周辺の紅葉情報の事務所HPでの提供	真名姫湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理所職員がダム湖を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統括管理事務所HPに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報を提供	—	九頭竜川ダム統括管理事務所
	通年	ダムカードの配布 真名川ダム内部見学	真名川ダム	ダム管理所にて来訪者にダムカードを配布 真名川ダムの堤体内等に見学者を案内 Aコース(30分)上段監査廊、主放水設備、キャットウォーク Bコース(60分)Aコース+維持放流樋、噴水前	1,664枚 (別に森と湖に親しむ集い2008記念版1,404枚) 1,246人	九頭竜川ダム統括管理事務所
平成21年度	平成21年4月(発行)	真名川ダム環境マップの作成	真名川ダム管理支所	ダム湖周辺の自然環境を楽しくも知らうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成(無料配布)	—	九頭竜川ダム統括管理事務所
平成21年6月7日	第60回全国植樹祭奥越会場「奥越まちながグリーンフェスタ」他	越前おおの結ステーション (大野市有終西小学校跡地)他	ブローグ(保育園児による演奏会)、記念式典、一般植樹、体験型イベント、実演・展示・販売等	約8,000人	大野市、勝山市、福井県奥越農林総合事務所、福井放送(株)、大野商工会議所他	
平成21年6月21日	越前大野エコフィールドコスモスの播種イベント	越前大野エコフィールド	コスモスの種まき、こどものトラクター乗車体験、どんぐり苗畑の草取り	約100人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会	
平成21年6月30日 平成21年12月17日 平成22年2月18日	真名川ダム弾力的運用管理検討委員会	学びの里「めいりん」 (大野市生涯学習センター) 多田記念大野有終会館	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る	—	真名川ダム弾力的運用管理検討委員会	
平成21年7月18～19日	もりみずカップ2009 少年サッカー大会	奥越ふれあい公園 陸上競技場	平成20年の「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルとして、九頭竜水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川・大野市にゆかりのある少年サッカーチームを招き、相互の親善を深めるとともに、個人技術の上達を図る	(延べ12チーム)	フェンテ大野フットボールクラブ	
平成21年度	平成21年7月25日	森と湖に親しむ旬間「ダム見学会」	真名川ダム ダム堤体見学 操作室見学 大噴水見学 小枝を使って工作 ダムマニア写真展 離測定クイズ 流木配布	約400名	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会、九頭竜川ダム統括管理事務所、福井森林管理署、福井県、大野市、電源開発(株)、北陸電力(株)、関西電力(株)	
	平成21年7月21～31日		大噴水ライトアップ(20:00～20:30) (26日からダム放流のため中止)	—		
	平成21年10月12日	越前大野エコフィールドドングリの苗づくりイベント	越前大野エコフィールド	ドングリ拾い、ドングリ根付け(6,000個)、マルチ掛け、H20年度苗の植替え	約200人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成21年10月16日～11月27日	ダム周辺の紅葉情報の事務所HPでの提供	真名姫湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理所職員がダム湖を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統括管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供	アクセス数 10月16日～11月30日間で574件	九頭竜川ダム統括管理事務所	
平成21年10月30日	越前大野エコフィールド「菜の花(キザキノナタネ)」の播種	越前大野エコフィールド	菜の花(キザキノナタネ)の種まき	—	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会	
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理所にて来訪者にダムカードを配布	1,438枚 (累計3,102枚)	九頭竜川ダム統括管理事務所	
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	真名川ダムの堤体内等に見学者を案内 Aコース(30分)上段監査廊、主放水設備、キャットウォーク Bコース(60分)Aコース+維持放流樋、噴水前	1,140人	九頭竜川ダム統括管理事務所	
	真名川水辺の楽校	大野市南新在家河川敷(整備中)	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる親水活動の場 ・自然体験、自然学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間 上記の保全と創出を図るとともに、維持管理、動植物モニタリング調査を継続的に行っている	62人	真名川水辺の楽校ビオプランズ	

【出典：平成20年度諸計器測定・ダム諸量・年次報告書作成業務 平成21年3月
真名川ダム他年次報告書作成業務 平成22年1月
九頭竜ダム年次報告書作成業務 平成23年2月】

表 7.3-2 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(その2)

開催日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成22年6月20日	越前大野エコフィールドコスモスの播種イベント	越前大野エコフィールド	・コスモスの種まき ・どんぐり苗畑の草取り ・子どものトラクター乗車体験	約100人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成22年6月21日 平成22年11月25日 平成23年1月25日	真名川ダム弾力的運用管理検討委員会	大野市文化会館	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る	—	真名川ダム弾力的運用管理検討委員会
平成22年7月17～18日	もりみずカップ2010 少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年の「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川・大野市にゆかりのある少年サッカーチームを招き、相互の親善を深めるとともに、個人技術の上達を図る。今年度は、越前大野城築城430年市民自主事業としても実施。	(延べ12チーム)	フェンテ大野フットボールクラブ
平成22年7月24日	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム	真名川ダム見学会 ・ダム見学 (堤体内通路、ギャラリー、噴水、操作室等) ・森のマスコットづくり ・福井の森とダム、国有林の森林保全の取り組みを紹介 ・ダムマニア写真展 ・距離測定クイズ ・流水・堆肥・オガ粉の配布	約300名	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会、九頭竜川ダム統合管理事務所、福井森林管理署、福井県、大野市、電源開発(株)、北陸電力(株)、関西電力(株)
平成22年7月24～31日	森と湖に親しむ旬間行事		大噴水ライトアップ(20:00～21:00)	—	
平成22年8月31日	シンボルフラッグ進呈	大野市 市長室	「もりみずカップ少年サッカー大会」が今後とも継続されることを願い、平成20年の全国行事で使用された「森と湖に親しむ旬間」のシンボルフラッグを大野市を通じて、もりみずカップ実行委員会へ進呈した。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成22年10月11日	越前大野エコフィールドどんぐりの苗づくりイベント	越前大野エコフィールド	・どんぐり拾い ・マルチ掛け ・どんぐり植付け(約2,000個) ・どんぐり苗の植替え	約200人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成22年10月22日～11月25日	ダム周辺の紅葉情報の事務所HPでの提供	真名姫湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理所職員がダム湖を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成22年11月7日	「水源の森づくり」第5回植樹会	真名川ダム上流の中島公園内、外一箇所	・NPOドラゴンリバー交流会より提供いただいたコナラ、クスギ、シラカシなどの苗木300本を各自が持ち寄ったスコップなどで植樹。(苗木は、NPOドラゴンリバー交流会の会員がどんぐりから育成) ・過去に植樹した苗木周りの草刈り	24人	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理所にて来訪者にダムカードを配布	1,034枚 (累計4,136枚)	
	真名川ダム環境マップの配布	真名川ダム管理支所	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成(無料配布)平成21年4月に初版1,000部を発行、平成22年12月に2,000部増刷。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	真名川ダムの堤体内等に見学者を案内 Aコース(60分) 上段監査廊、主放水設備、維持管理棟、噴水前を案内 Bコース(30分) 維持管理棟、噴水前を案内	1,140人	
	真名川水辺の楽校	大野市南新在家河川敷(整備中)	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる親水活動の場 ・自然体験、自然学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間 上記の保全と創出を図るとともに、維持管理、動植物モニタリング調査を継続的に行っている	62人	真名川水辺の楽校ビオフレンド

【出典：ダム管理フォローアップ年次報告書作成業務 平成24年3月】

表 7.3-2 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(その3)

開催日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者	
平成23年度	平成23年7月9、10日	第4回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。国土交通省から「森と湖に親しむ旬間の全国行事」の開催地を持ちまわっていたシンボルフラッグが、本大会の優勝旗として贈呈され、本年度から優勝チームが持ちまわることとなった。	(延べ12チーム)	フェンテ大野フットボールクラブ
	平成23年7月23日	森と湖に親しむ旬間行事「ダム見学会」	真名川ダム	真名川ダム見学会 ダム見学(堤体内通路、ギャラリー、噴水、操作室等)、 美しい森づくりを目指して展示と森のマスコット作り、 福井のダムと森について学ぼう、 水力発電の魅力を紹介、 流木・おが粉のプレゼント	約230人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
	平成23年10月10日	越前おおのエコフィールドどんぐりの苗づくりイベント	越前おおのエコフィールド	・どんぐり拾い ・マルチ掛け ・どんぐり植付け(約5,000個) ・どんぐり苗の植替え	約200人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
	平成23年10月14日～11月21日	ダム周辺の紅葉情報の事務所HPでの提供	真名姫湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理所職員がダム湖を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
	平成23年11月6日	「水源地の森づくり」第6回植樹会	真名川ダム上流中島公園上流	NPOドラゴンリバー交流会の会員の方が、ドングリから育てたコナラ、クスギ、シラカシなどの苗木320本を提供していただき、各自が持ち寄ったスコップやクワなどで植樹。	45人	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
	平成24年2月29日	真名川ダム弾力的管理検討委員会	大野市文化会館	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る	—	真名川ダム弾力的管理検討委員会
通年	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理所にて来訪者にダムカードを配布	972枚 (累計5,108枚)	—	
	真名川ダム環境マップの配布	真名川ダム管理支所	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所	
	真名川ダム内部見学	真名川ダム	真名川ダムの堤体内等に見学者を案内 Aコース(60分) 上段監査廊、主放水設備、維持管理棟、噴水前 Bコース(30分) 維持管理棟、噴水前	514人	—	
	真名川水辺の楽校	大野市南新在家河川敷	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる親水活動の場 ・自然体験、自然学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間	41人	真名川水辺の楽校ピオフレズ	
平成24年度	平成24年7月7～8日	第5回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。	(延べ12チーム)	もりみずカップ実行委員会 フェンテ大野フットボールクラブ
	平成24年7月28日	森と湖に親しむ旬間行事「真名川ダム見学会」	真名川ダム	・真名川堤内通路、ギャラリーウォーク、 発電設備などの見学 ・工作教室(森のマスコットづくり、 スマートボールゲームなど) ・流木工作教室 ・パネル展示、流木・おが粉・堆肥の配布など	約270人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会、九頭竜川ダム統合管理事務所、福井森林管理署、福井県、大野市、電源開発(株)、北陸電力(株)、関西電力(株)
	平成24年10月8日	越前おおのエコフィールドどんぐりの苗づくりイベント	越前おおのエコフィールド	・ドングリ拾い(親子連れ中心) ・ドングリ苗木の植樹(2年もの苗木など約170本を平家平に植樹) ・ドングリの種まきと1年もの苗木の越冬準備	約220人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
	平成23年10月22日～11月26日	ダム周辺の紅葉情報の事務所HPでの提供	真名姫湖周辺	真名姫湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理所職員がダム湖を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
	平成24年11月3日	「水源地の森づくり」第7回植樹会	真名川ダム上流	NPOドラゴンリバー交流会の会員の方が、ドングリから育てたコナラ、クスギ、シラカシなどの苗木300本を提供していただき、各自が持ち寄ったスコップやクワなどで植樹。	60人	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
	平成25年1月21日	真名川ダム弾力的管理検討委員会(結とびあ)	多田記念大野有終会館	洪水調節容量の一部に貯留した容量を利用して、ダム下流真名川の河川環境の保全・改善を図る	—	真名川ダム弾力的管理検討委員会
	ダムカードの配布	真名川ダム	ダム管理所にて来訪者にダムカードを配布	916枚 (累計7,284枚 :平成24年12月末現在)	—	
	真名川ダム環境マップの配布	真名川ダム管理支所	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所	
通年	真名川ダム内部見学	真名川ダム	真名川ダムの堤体内等に見学者を案内 Aコース(60分) 上段監査廊、主放水設備、維持管理棟、噴水前 Bコース(30分) 維持管理棟、噴水前	465人	—	
	真名川水辺の楽校	大野市南新在家河川敷	・子供たちや地域住民が川とふれあい親しむことのできる親水活動の場 ・自然体験、自然学習の場 ・多種多様な動植物が生息生育できる水辺空間	183人	真名川水辺の楽校ピオフレズ	

【出典：ダム管理フォローアップ年次報告書作成他業務 平成25年3月】

7.4 ダム周辺の状況

7.4.1 ダム周辺整備の状況

真名川ダム周辺環境整備事業は、真名川ダムの建設と合わせてダム周辺環境整備を実施し、ダム湖及び周辺区域の自然環境を活用して、周辺地域の活性化を図るものである。

真名川ダム貯水池周辺の環境整備は、ダム・貯水池周辺のうち、ダムサイト周辺地区、若生子大橋周辺付近(貯水池中流部)、中島地区(貯水池上流部)の3ヶ所を対象に整備を行っている。

環境整備のテーマは「四季の変化」とされており、各地区に分担させ、植栽によって表現させるようにした(図 7.4-1)。

- 1) ダムサイト付近：春をテーマとし、桜を基調とした展望の場を左岸、修景の場を右岸という風に植栽や整備を行った。
- 2) 若生子大橋付近：夏をテーマとし、日の谷橋下の滝周辺を整備し、滝のある景観、休憩スペース、駐車場の整備を行った。
- 3) 中島地区：秋をテーマにし、紅葉のイメージを基調とした植栽を行い、総合公園的な整備を行った。

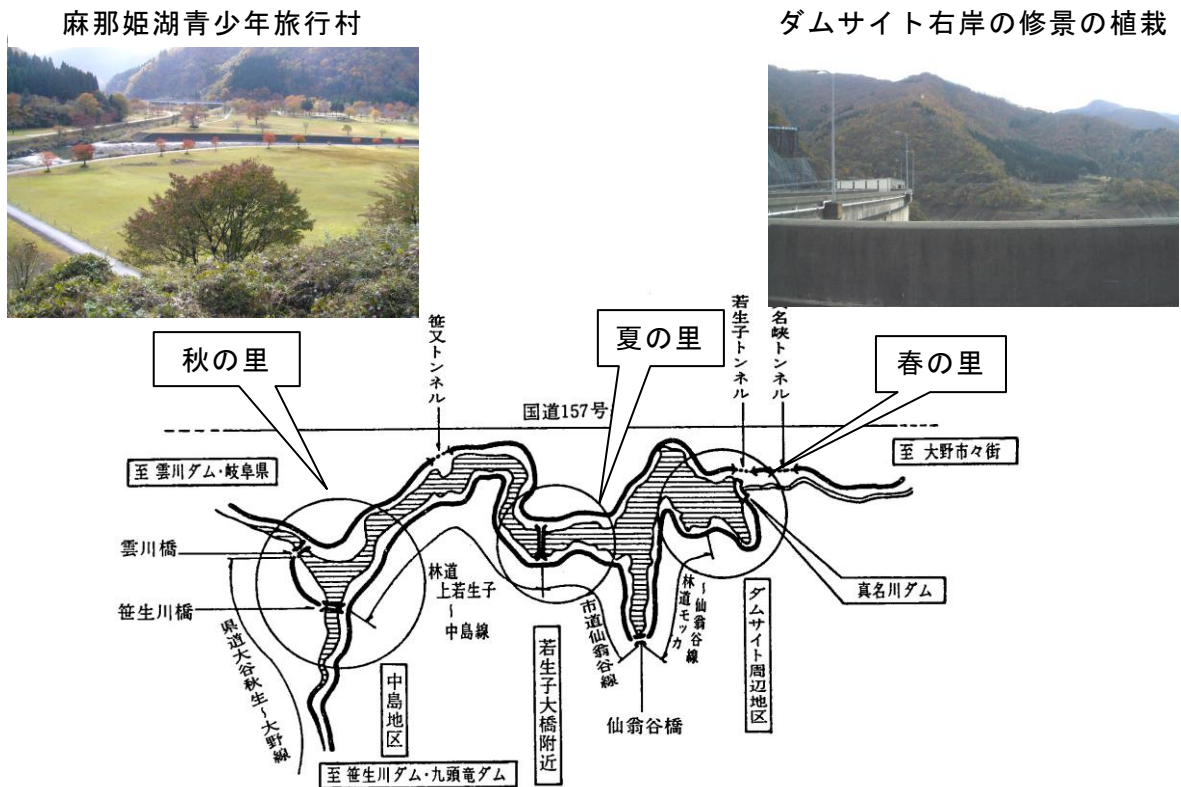


図 7.4-1 真名川ダム周辺環境整備位置図

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

表 7.4-1(1) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(ダムサイト地区)

整備内容	施工内容	数量等
記念碑	コンクリート	95m ³
	舗装(アスファルト・カラー)	270m ²
	石およびモルタル張り	324m ²
	モニュメント コンテル材	2t
	植栽、低木	540本
案内板	舗装アスファルト	480m ²
	舗装カラー	453m ²
	コンクリート	29m ³
	石およびタイル	
	案内板(黒ミカゲ)	12m ²
	植栽高・低木	275本
慰霊碑	舗装(土間コンクリート)	10m ²
	コンクリート(RC)	28m ³
	石工事	7m ²
	レリーフ(ブロンズ0.75m×2m)	
	植栽高・低木	340本
展望台	植栽 桜、まつげ	30本
	盛土	250m ²
	芝生	400m ²
左岸道路沿い整備	舗装アスファルト	2,000m ²
	手摺り	260m
	盛土	1,500m ²
	コンクリート	100m ³
	植栽	32本
骨材プラント跡整備	整地	1式
	植栽 桜	410本
その他	1式	

表 7.4-1(2) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(若生子大橋付近)

整備内容	施工数量	摘要
盛土	700m ²	
アスファルト舗装	100m ²	縁石工 60m
砂利舗装	500m ²	} 景観木、主木等
高木植栽	100本	
中木植栽	120本	
低木植栽	150本	
芝生	800m ²	
その他雑工事	1式	ベンチ、くず入れ、灰皿、案内板等

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

表 7.4-1(3) 真名川ダム貯水池周辺整備事業(中島地区)

整備内容	施工数量	摘要
切土	100,200m ³	昭和53年度施工
盛土	112,800m ³	〃
高木植栽	4,248本	〃
低木植栽	11,045株	〃
草木植栽	2,600株	〃
種子吹付	44,050m ²	〃
種子蒔付	61,740m ²	〃
道路延長	3,607m	幅員5m:185m、2.5m:2,230m 幅員4m:1,112m、1.5m:80m
アスファルト舗装	11,670m ²	〃
張芝	27,380m ²	〃
雑工事	1 式	車止め24基、排水溝90m 広場施設(中央)1式

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.4.2 大野市によるダム貯水池周辺整備

真名川ダム貯水池周辺整備のなかで、表 7.4-2 に示す「秋の里」の中島地区の整備を昭和 53 年より大野市が実施してきた。

また、青少年の健全な旅行の推進を図り、あわせて過疎地域の振興に資する観光施設として、旧運輸省の補助制度を利用し、昭和 40 年 9 月の奥越豪雨によって壊滅的な被害を受けた大野市旧西谷村の跡地に麻那姫湖青少年旅行村(中島公園)を整備した。

春の里には、平成 4 年に麻那姫湖の由来となった麻那姫像の銅像を建てるなどの整備を実施している。

表 7.4-2 真名川ダム貯水池周辺整備事業(中島地区)

事業・年度		施工内容		
第一期事業	昭和53年	便所	1カ所	4穴
	昭和54年	給水施設	1カ所	2栓
		便所	1カ所	4穴
		緑の教室	1カ所	1,200m ²
		駐車場	舗装	
	昭和55年	ハレコート	クレー舗装	1,800m ²
		テニスコート	クレー舗装	1,400m ²
		便所	1カ所	4穴
	昭和56年	林の遊場	遊具等	1,600m ²
		自然植物園	植栽	2,500m ²
駐車場		舗装	1,450m ²	
給水施設		1カ所	2栓	
電気設備		3カ所		
第二期事業	昭和57年以降	管理棟		150m ²

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

麻那姫像



7.4.3 ダム周辺施設の利用状況

大野市(旧大野市域)における最近 10 年間の観光入込み客数を図 7.4-2 に示す。

最近 10 年間の観光入込み客数は、平成 15 年の約 84 万人が最も多く、年ごとに増減はあるが、平成 16～24 年は 60～70 万人で横ばいとなっている。平成 24 年は約 64 万人であった。

平成 22 年は「越前大野城築城 430 年祭」事業の効果により、年間を通じて入込み客数が増えたと考えられる。

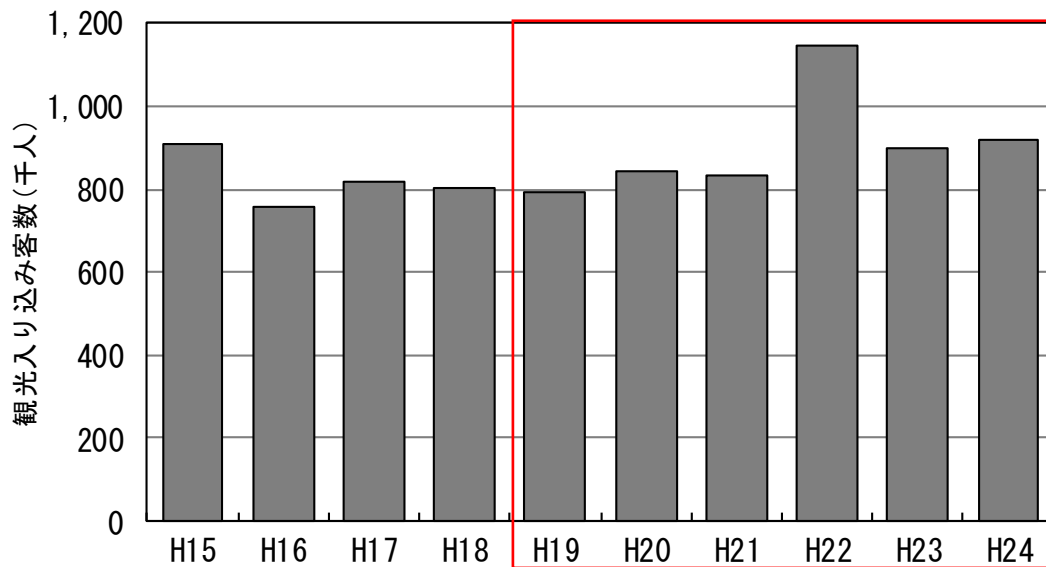


図 7.4-2 大野市(旧大野市域)における観光入込み客数の推移

【出典：越前おおの観光戦略プラン 平成 24 年 3 月】

7.4.4 ダムおよびダム周辺のイベント等の開催状況

(1) 森と湖に親しむ旬間行事

真名川ダムでは、真名川ダム見学会を常時受け付けている。また「森と湖に親しむ旬間行事」の一環としても毎年見学会を開催している。

この他、NPO が主催する「ドングリの苗づくりイベント」、ダム管理者が行っている「ダム周辺の紅葉情報の HP での提供」など、多くの観光客が集まるイベントや情報提供が行われている。

28日(土) 29日(日) ダムのスケールを体感! 真名川ダム・九頭竜ダムのダム見学会を開催

28日(土) 10:00~16:00 真名川ダム 堤体内見学会

- 真名川ダム 堤体内見学会
- 美しい森づくりを目指して 展示と森のマスコット作り
- 福井の森とダムについて学ぼう
- ダムマニア ~ダムの魅力を語る~
- 流木を有効利用した おが形をプレゼント

29日(日) 10:00~16:00 九頭竜ダム ゲート室見学会

- 九頭竜ダム ゲート室見学会
- 長野発電所見学会
- 森がはぐくむ湧水文化を学ぼう
- ダムマニア ~ダムの魅力を語る~
- 流木でアート、工作教室

28日(土) 11:00~16:00 福井県が管理するダムの見学・説明会

図 7.4-3 森と湖に親しむ旬間行事(真名川ダム見学会)開催の新聞広告



図 7.4-4 森と湖に親しむ旬間行事(真名川ダム見学)の様子



図 7.4-5 森と湖に親しむ旬間行事(流木の配布・工作教室)の様子

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.5 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

ダム湖利用実態調査は、「河川水辺の国勢調査：国土交通省河川局河川環境課」により、平成3年度から3年毎に実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査(利用者アンケート調査(直接ヒアリング)、利用者カウント調査)を実施し、年間利用者の推定を行うものである。

平成21年度の結果によれば、年間の利用者数は約5万2千人であった。

利用形態別状況の年間推計値によると、「野外活動」がほぼ大部分を占めており、ダム上流部にある麻那姫湖青少年旅行村の公園（キャンプ場）施設利用が多く、過去の調査結果からみてもアウトドア的な利用が大半を占めている。

なお、平成3年度の調査の来場目的の設問は、「スポーツ」、「釣り」、「ボート」、「散策」および「その他」であったが、平成6年度の調査からは、設問に「野外活動」と「施設利用」を追加している。

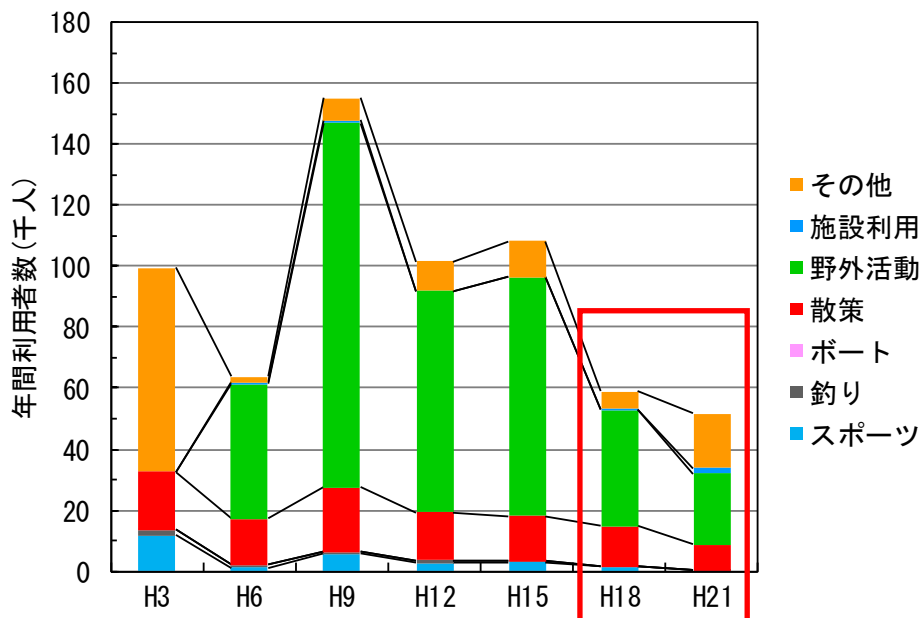


図 7.5-1 真名川ダム湖利用実態調査結果

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～平成21年度】

表 7.5-1 真名川ダム湖年間利用状況

(単位：千人)

利用場所	平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度	平成21年度
ダム	6.7 (6.7%)	1.9 (3.0%)	10.3 (6.6%)	15.9 (15.7%)	14.1 (13.0%)	13.3 (22.5%)	0.4 (0.8%)
湖面	2.3 (2.3%)	2.7 (4.2%)	8.1 (5.2%)	1.1 (1.1%)	5.5 (5.1%)	0.9 (1.5%)	3.0 (5.8%)
湖畔	90.4 (90.9%)	59.1 (92.8%)	136.9 (88.2%)	84.5 (83.3%)	88.7 (81.9%)	45.0 (76.0%)	48.4 (93.4%)
合計	99.4	63.7	155.2	101.5	108.3	59.1	51.7

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～平成21年度】

7.6 まとめ

ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るため、平成16年3月に「真名川ダム水源地域ビジョン」を策定し、平成18年2月には旧大野市、旧和泉村の合併に伴い「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」として、ビジョン推進委員会を設立し、施策の推進を図っている。

近年のダム湖周辺のイベントとしては「森と湖に親しむ旬間行事」、「水源地の森づくり植樹会」、ダム管理者が行っている「ダム周辺の紅葉情報の事務所 HP での提供」、NPOが行っている「ドングリの苗づくりイベント」や「真名川水辺の楽校」などが開催され、多くの来場者があり、受益地域と水源地域の交流や地域コミュニティーの向上に努めている。

<今後の方針>

水源地域ビジョン推進委員会を通じて、大野市や関係機関等と連携した取り組みを継続するとともに、関係機関の間での情報の共有と横の連携の強化、各種取り組みの広報等を行っていき、地域との関わりを広げていく。

7.7 文献リスト

「7. 水源地域動態」で使用した文献等を以下に示す。

表 7.7-1 「7. 水源地域動態」で使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月日	箇所
7-1	大野市勢要覧 2007	大野市	—	ダムの立地条件
7-2	記者発表資料 中部縦貫部分開通	福井河川国道事務所	平成 25 年 2 月 15 日	交通アクセス
7-3	福井県観光マップ	福井県	—	交通アクセス
7-4	国勢調査	総務省統計局	昭和 35 年～平成 22 年	人口・世帯数
7-5	事業所・企業統計調査	総務省統計局	昭和 35 年～平成 24 年	事業所数、 従業員数
7-6	真名川ダム水源地域ビジョン	大野市、 九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 16 年 3 月	水源地域ビジョン
7-7	真名川ダム・九頭竜ダム 水源地域ビジョン	大野市、 九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 18 年 2 月	水源地域ビジョン
7-8	ダム管理フォローアップ 年次報告書作成他業務	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 25 年 3 月	平成 23, 24 年度九 頭竜ダムにおける 地域交流活動
7-9	平成 20 年度 諸計器測 定・ダム諸量・年次報告 書作成業務	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 21 年 3 月	平成 19 年度真名川 ダムにおける地域 交流活動
7-10	真名川ダム他年次報告 書作成業務	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 22 年 1 月	平成 20 年度九頭竜 ダムにおける地域 交流活動
7-11	九頭竜ダム年次報告書 作成業務	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 23 年 2 月	平成 21 年度九頭竜 ダムにおける地域 交流活動
7-12	ダム管理フォローアップ 年次報告書作成業務	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 24 年 1 月	平成 22 年度九頭竜 ダムにおける地域 交流活動
7-13	越前おおの観光戦略プ ラン	大野市	平成 24 年 3 月	観光入り込み客数
7-14	河川水辺の国勢調査結 果(真名川ダム湖利用実 態調査)	国土交通省 九頭竜ダム 統合管理事務所	平成 3 年度 ～平成 21 年度	ダム湖利用実態調 査